

1. 一緒に勉強していきましょう!

先生に言われた言葉はとて心に残りました。

正直、どこかで自分とは関係のないことだと思い、さけていたのかもしれませんが

原爆のこともさいたことはあるというのと言いつに詳しいことはさけていたんだと

思います。この前の授業後、家に帰るとおはあちゃんに原爆のことに

ついて聞いてみました。自分からこのように知ろうとするは簡単に色々なことが

知れる、当たり前ですが、このように知ろうとする気持ち、考えが大切なのだ

と思いました。そして湯川さんは知ろうとし続けただけでなく、それを相手に

伝えようとする事も諦めずに行、たことが一番濃いことだと思いました。

今回の動画を見て、「知らなかった、教えてくれなかった、この言葉の重さを感じ、考え直させられました。

これから、沢山、研、究、力、を、野、心、強、く、し、て、周、り、に、同、調、を、一、つ、自、分、な、り、と、考、え、自、分、の、責、任、と、持、つ、る、よ、う、に、な、ら、な、い、と、思、い、ま、す。

私達が知らなければならぬことは何なのか、それを考え続け、学ぶ続ける必要があることを忘れてはいけないと思いました。

知りたくないことから目を背けてしまう。これは重大な問題だということを知った。

原発については調べたことがあるが、原爆は見たくなくて避けてきた。大学で科学を専攻していく身として知識を身に付けて

いこうと思う。

私も、原爆

投下についての、戦争のことも、今まで知らなかったし、映像を見ると悲惨な事が明白の、見たいと思っていた、この授業で負の面も学ばないといけないと感じた。LA学群で学ん

で、行くにあたり、好きな事を学ぶのはもちろん大切だけれど、あまり好きではないことも学ばないと、

少しでも何かを得ることはできると思うので、今後に活かしたいと思つた。

今からは自分が選んだ学びをしっかりと

学び、それから、好きなものをしっかりと学ぶのは大切で、

目を背けていた科目、知らなかったことを積極的に学ぼうと努力をしなければならぬ。学ばないと

知ることや止められないと感じた。

私は今回ビデオなどで科学や戦争だけでなく様々な事柄に関して知らないこと、考えないことの恐ろしさを言うと思いました。

講義の資料の先生の言葉を見つ

胸が痛かった。"自分にしか考えられない内容について、知識を持つだけでは、厳しくいえる、特らうとしはかった。"この言葉は私にも言わなくてはならない。自分にも関わりのもしやばい問題について、私は何一つとして全う理解してはいないことに気がついた。まよもんは自分でも恥づかしく感じた。私はコミュニケーションの授業で外国人に日本の文化を教えるという質問をした。まよもう一度聞かされたら原爆についての博物館はぜひ連れていってほしい。私自身は行くことに決めました。

化学者連は原爆の事実を知らずに会議に参加していたことに驚いた。一体何のために化学者になったのか、罪の無い人達の命を奪った核兵器について現状を知りなすじ何も思わなかったのか。ヒトラーの映像も同じように、見て見ぬフリをし、学ぼうとしないのがいかに悪く残酷であるのか理解できた。現実から逃げようとする、積極的に勉強しなければならぬ。

「勉強しないで考えるのは危険だ」というのはもっともで、現に原爆のことを命かけている科学者がそれを証明している。

これまで私は学びたくないものから逃げ続けていたが、考える、考えられる範囲を広げるために、もっと様々なことを勉強しなければならぬと強く感じた。

悪い面も良い面も、科学はどんな方向にも私達を導いていると思いたが、どんなことにも目を背けないことが一番大事なことだと思いた。

漏川 喬樹のビデオを見た。原爆のことを知らない、知らなくとも正しい自分を取らなす。

戦争体験者の話を聞けるのは私たちがおそらく最後だとおぼわっていたので、嫌なことから逃げ死にしっかりと向き合っていくなければならぬと思いた。

この授業では、最初に、「この授業の隠しテーマは『なぜ勉強するか』です。」とお話しました。毎年の授業で、このテーマについての私の考えがどれだけ伝わるか、と不安に思いながら授業しています。しかし、毎年、学生の皆さんのコメントに、私は勇気をもらいます。

世界には様々な問題が横たわっています。原爆を含む核兵器の問題はその一つに過ぎません。世の中の人々がそうした問題に関心ないので、将来を絶望的に語る人が多いです。しかし、皆さんのコメントを読んでいると、将来は皆さんが切り開いてくれるので大丈夫だ、と思えて、私は将来を楽観しています。むしろ、問題は「好きなことだけ勉強していればいいのだ」という風潮(一種の同調)です。

私もまだまだ勉強が足りません。これから、お互いに勉強していきましょう!

2. 科学者の良心・科学者と金

日本は基礎研究にお金を出さなかり、情報の時代で情報科学にお金を費やす、他国に先進国ながら遅れを取った。大学院を出ても研究職に就けない人も少なくない。企業の研究所でも結果が出なければ出資してもらえない。そういった日本の状況を見ると、防衛装備庁といった防衛という名の軍備に頼って研究する学者が生まれる環境に思える。

防衛装備庁の研究資金については、日本学術会議が2017年に声明を発表し、明確に批判しています。しかし、実際には、そうした研究費に飛びつく研究者もいるわけです。

国家と科学の力。問題で、自分たちの選択が国家を動かしていく
 ということを改めて痛感しました。知の選挙権を得てから、必ず投票
 に行きますが、全国的に見ると、年々投票率が下がっています。
 今回の場合、自分たちの現状を嘆くだけではなく、まずは行動すべきだと思えます。

税金の利用法を決定するのは最終的には国民です。選挙に行くことはもちろん大事です。ただ、それだけではなく、何が問題で、どんなことに税金を使うべきか、使うべきではないか、判断する能力が必要です。そして、その判断をするためには、勉強が必要だと考えられます。

自分にとって大切なものについて議論したり考えるときは、おもいもち
 合わせていたものは別に一度良い面と悪い面を学んでから考えることで
 先入観を無くせると思った。

全くその通りです！
 逆に勉強しないで判断することは、大変危険なことだと考えられます。

最近のことで、原爆の惨状を知り、戦争と科学者に警告。
 また、核兵器を作り上げる、開発と並んで「核の敵対行為」
 を強く訴えた。

原爆の父と呼ばれるオッペンハイマーは、その恐ろしさを認識し、ヒンズー教の経典の一節「我は死なり、世界の破壊者なり」を引用しました。

しかし、水爆の父と呼ばれるエドワード・テラーは、単に強力な兵器を作りたかった（自分のできることの範囲を広げたかった）ように私には思われます。核廃絶に署名が厚かま

集まらなかったのは、やはり破壊した国が日本だけだからだと思えます。

必ずしもそうとは言えません。原爆直後のフィルムを上映してその悲惨さを知った後、

多くの科学者たちが署名したからです。

科学者たちの科学に対する考え方の山中教授の話は興味深かった。科学者も自分の研究に対して疑問を持ち、責任を感じていたりすることを初めて知った。

山中教授の件については、まとめのときにお話します。

これは木科学だけではなく、エンジニア
 などの技術者も同じことが言えると思えた。エンジニアも「間違えれば、ノッカーなど、
 悪い方法にも使われて功のと同じくおそろしいと思えた。

恐い技術は世の中に溢れています。その通りです。

今まで私たちの生活が豊かになってきたのは、科学者たちのおかげというもある。その中には、科学者が人道から少し離れて行った研究もあると思うので、なんとお話しできない

自分が便利だから沈黙する、は、ビデオに出てきたニーメラーの言葉に基づく詩で語られているの

と共通しますね。一度、それを許すと、ずるずるになってしまうことを歴史は示しています。

人間は同じ失敗をしないように、もと発展し人間を利用するために勉強をする。しかし、発展とい
一方に偏して、今回の核に関わる問題と似ている問題を起こしてしまっている。

科学と技術が止められない発展をするとき、いつでもそういう課題があります。しかし、その課題を科学者が解決してくれる見込みは少ないです。

科学者が証明してくれるのを待っているだけではいけないし、私たちももっと考える必要があると感じた。

だから、私たち自身が、勉強した上で考えていく必要があります。

3. 私たちはどうする・その他

今回の授業では、^T 右の方が矢張り資料が資料がマイルドに記述したという表現に
おどろきを感じた。当時が^T いかにも悲劇的な色彩を伝えたのにマイルド
にするのは、的外れかと思う。最近の報道の規制とも見られるように
日本人の視野が狭まってきたと思う。

どんなに悲惨に描いても、現実の方が悲惨であることは間違いありません。戦争映画の映像よりも、実際の戦争の映像の方が、いつも遥かに悲惨です。

ただ、マイルドにすればより多くの人が見に来るだろう、という判断はありうると思います。私もどう考えるべきか、判断は難しいです。是非、実際に見てきて下さい。機会があれば、意見交換しましょう。

人間である以上、権力を持つた...

世界の数ある国の中で、トップでありたいと考えるのは人間、
承認欲求がある以上は仕方ないと思う。

ヒトラーがやったことは、リーダーシップとは無縁であると考えべきだと思います。

ヒラーの勢力拡大は、まさに監獄実験の実験結果とつながり
とあった。私、彼のスピーチは後にはなるとは強く感じて、人々の気集中に
いたった。

人々に自分の考えを浸透させる方法について、良く研究し、

それを実行しました。例えば、学校教育の現場では、子どもに家庭のことを作文で書かせ、それを手がかりに各家庭の思想調査をしたそうです。

歴史が示すように、政府（権力を持った組織）は、ときどき、私たち国民を政権のための道具として利用しようとしています。これはリーダーシップではありません。私たちが、いいように使われていないか、いつもチェックする必要があるのではないのでしょうか。

「現代の日本人が、原爆と戦争について知らない
のか、興味がないのか、考える時間（授業）がなかったのか。」

まず、小中学校での教育については、十分に慎重であるべきだと、個人的には思っています。というのも、あまりに悲惨な歴史であって、ショックが大きいからです。しかし、高校生以上については、積極的に学習機会があるといいと思っています。ところが、高校生以上には必修が少なく、また、今の高校教育は大学受験のためである、という認識が広まっていて、原爆の話も通り一遍ではないのでしょうか。高校の先生には「大学受験があるから理想の教育ができない」と言う人もいます。やれやれ。

だから、私は、みなさんに自分で勉強しようと考えて欲しいです。好きかどうか、とは別の観点から、勉強しなければならぬことがある、と考えて欲しいと思っています。

授業日程について

1月20日(月) 期末試験(今日)

1月27日(月) 第14講(テスト返却とまとめ)